

論文審査の要旨

| | | | |
|--|----------------|---------|---------|
| 博士の専攻分野の名称 | 博 士 （ 教育学 ） | 氏名 | 池 田 匡 史 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第①・2項該当 | | |
| 論 文 題 目 | | | |
| 戦後国語科における単元学習の展開に関する研究 —主題単元学習の展開と可能性— | | | |
| 論文審査担当者 | | | |
| 主 査 | 教 授 | 山 元 隆 春 | |
| 審査委員 | 教 授 | 田 中 宏 幸 | |
| 審査委員 | 教 授 | 竹 村 信 治 | |
| 審査委員 | 教 授 | 間 瀬 茂 夫 | |
| 〔論文審査の要旨〕 | | | |
| <p>本論文は、戦後国語科における単元学習・単元学習論において、特に「主題単元」「主題単元学習」と称されるものが、戦後初期の経験主義の考え方に基づいた単元学習の課題を乗り越えようとして成立した経緯を解明し、それがどのようなことを目指しながら国語科の実践として展開されたのかということ、明らかにしようとしたものである。</p> <p>本論文は、序章（研究の目的と方法）、第1章（国語科における単元学習論研究史の成果と課題）、第2章（国語科における主題単元論の原理）、第3章（読むことを組み込んだ単元学習としての単元学習論）、第4章（読解主義を乗り越えるための単元学習論）、第5章（具体的な実践としての主題単元学習の展開）、第6章（単元学習論のなかでの主題単元の価値）、結章（研究の総括と課題）から構成されている。</p> <p>序章には、戦後国語科における単元学習・単元学習論のなかでも特に主題単元・主題単元学習論と呼ばれるものの成立の経緯と展開に焦点を当てる意義が述べられ、論文全体の研究課題が三点にわたって記述され、論述の手続きが示されている。</p> <p>第1章では、従来の国語科における単元学習論研究史の焦点について綿密な整理検討がなされた後、研究史における「主題単元」の位置を確認した後、主題単元論研究における研究課題が明確に設定されている。</p> <p>第2章では、国語科における単元学習・単元学習論がどのように分類されてきたのかということを検討しながらその問題点を指摘し、単元学習・単元学習論における主題単元の価値を論じている。国語科において主題単元が成立する理由を明らかにした後、小学校・中学校・高等学校国語教科書における主題単元構成の実態を分析し、国語教科書単元において主題単元が採用された理由が明らかにされている。</p> <p>第3章では、戦後初期の主題・話題を軸とした単元学習実践の実態を明らかにしながら、それに続く輿水実の「主題単元」論と中沢政雄による単元学習論を取り上げて、主題単元・主題単元学習論がどのように成立したのかということ、明らかにした。また、戦後初期の単元学習論に対する批判的見解を検討した上で、読むことを組み込んだ単元学習としての主題単元論の史的意義が明らかにされている。</p> | | | |

第4章では、戦後国語科の課題を乗り越えるべく生じた、いわゆる読解主義を乗り越えるための主題単元学習論の実相を、長谷川孝士の主題単元学習論や白石等による読書指導としての主題単元実践を主たる対象として取り上げながら分析・考察して、読解主義の克服のために主題単元学習論とその実践が果たした意義が明らかにされている。

第5章では、広島大学附属中・高等学校、加藤宏文、遠藤和子、森田信義・葛原昌子らの主題単元学習論とその実践、及び「新単元学習」論における主題単元の実態を詳細に分析・検討しながら、1970年代中盤以降に多彩なかたちで展開された主題単元の内実を明らかにした。また、それをうけた、2000年代以降の主題単元の動向を分析・検討することによって、現在に続く主題単元の実態が明らかにされている。

第6章では、前章までの国語科における主題単元・主題単元論の展開に関する考察を踏まえて、単元学習論・主題単元学習論の展開が浮き彫りにした「国語科」観について論じ、国語科における主題単元・主題単元学習の担う役割と価値が明らかにされている。その上で、教育の現代的文脈のなかで主題単元学習論がなお、どのような意義を担っているのかということについて論じられている。

結章では、第1節で本論文の総括を行い、第2節で今後の研究の課題を述べている。

本論文は、戦後国語科の単元学習・単元学習の史的研究のなかで明らかにされてこなかった主題単元・主題単元学習論にはじめて光を当て、その成立と展開の模様を、残された文献を渉猟することによってつぶさに検討することによって、その国語教育史的な意義を明らかにしえたところに大きな価値がある。また、国語科の教科としての本質を問い、国語科で学習者にどのような力を育てていく必要があるのかということについてのあらたな問題提起を含むものでもあった。高く評価できる論文である。とくに次のような点に本論文の意義と特色を認めることができる。

(1) 国語科における主題単元・主題単元学習が、国語科における単元学習において特殊な位置にあるものであることを国語教育史研究としてはじめて明らかにしたこと。

(2) 「認識内容」を学習者のうちにどのように築き上げるのかという人文科学の基礎としての性格を帯びるものとしての主題単元・主題単元学習の意義を明らかにし、そのことを可能にしようとした国語教育実践者たちの営みを掘り起こし、史的に定位したこと。

(3) 国語科における主題単元・主題単元学習が、経験主義的国語教育批判としての読解主義を乗り越えようとする人々の教育実践を通して開拓されてきたことを、資料に基づきながら実証的に解明しえたこと。

(4) 戦後から現在に至る各時代の国語科学習への要請に応じながら、主題単元・主題単元学習がみせた推移の実相を明確にすることを通して、日本における「国語科」観の形成という教科教育の本質に関わる問題を導いたこと。

(5) 主題単元・主題単元学習の成立と展開を綿密に検討することを通して、それらの根底に学習者の内面を重視しようとする教師たちの意図のあることを明らかにしたこと。これは学習論・学習者論としても重要な論点となりうる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

